

円盤と宇宙哲学の研究誌

# 日本GAPニューズレター

1963

11月 — 12月

日本GAPニューズレター

— 1963 —  
11月・12月号目次

通巻第19号

クリスマスメッセージ..... C・A・ハニー .....	1
高度に進化した遊星から来て地球で生 まれかわった人が墮落するのはなぜか .....	2
質 疑 応 答 .....	6
イエスはなぜ歴史家から無視されたか .....	10
子供の教育法 .....	13
再び生まれかわりについて .....	17
誌友からの便り .....	20
月面の不思議な赤色光 .....	22
テレビシー講座..... C・A・ハニー .....	23
編 集 後 記 .....	33

## クリスマスの

### メッセージ

C · A · ハニ 1

私が機関誌を発行し始めてから満二カ年になります。読者各位にクリスマスと新年の祝辞をお送りしますとともに、私を援助して下さった読者に心からの感謝の意を表したいと思ひます。

最近私の円盤啓蒙活動を中止させようとして各種の陰謀が企てられています。この攻撃は思ひがけない方面から行なわれており、地球人のあいだにまざって住んでいて宇宙人のように見せかけている詐欺師たちによってひき起こされました。しかし成功していません。今後はもっと多くの陰謀が企てられるでしょう。読者はそうした反対派の刊行物の内容を容易に見抜くことができます。なぜならそれらは私が支持してきたあらゆる問題と矛盾していて、非難、攻撃、誤説などを含んでいるからです。

私にたいするこうした攻撃派が出す情報と、『空飛ぶ円盤同乗記』中に述べてある哲学とを比較してみてください。右の書物は現在読者が直面する疑問の多くに解決を与えるものとして信頼するに足る書です。加うるにかつて連載したアダムスキー氏保証済みの、

円盤問題における心靈的な詐欺行為”中の知識が多くの解答を与えるものと思ひます。また、高度に進化した遊星から地球へ来て生まれかわった人が墮落する理由について述べた別掲記事もその問題を説明しています。

人はだれでも記事を書いて自分は高度に進化した遊星から来た人間”とコンタクト(接触)しているのだと自称することはできません。しかし通常は本人の話が真実であるかどうかを知る方法がないために、その内容の価値については物語自体に頼らねばなりません。与えられる知識が宇宙の原理や法則と一致しているならば、それは有益です。価値があるならばそれを応用して下さい。もし宇宙の法則と融合していないならば、その物語が真実であっても受け入れないほうがよいでしょう。

私は自分が正しくて他人はすべて間違っている主張するのではありません。私が誤っているのは次のとおりです。「宇宙人の哲学を長年研究してきた私は、ある基本的な原則が存在するのを発見した」その原則は科学と哲学の両分野にわたって筋が通っています。そのために私は最善をつくしてそれを教え広めています。この原則に一致していない教え、宇宙の法則にも一致していない知識をだれが提供しようとも私は受け入れることはできません。

『空飛ぶ円盤実見記』、『空飛ぶ円盤同乗記』、『空飛ぶ円盤の真相』に述べられている諸原則と矛盾する知識。情報が出た場合は注意して下さい。疑問が起こったときは右の各書物をガイドとして用いて下さい。

国連に関する私の考え方に疑問をもつ人は、私が発行するサイ

エンスバブリケーションズ・ニューズレター十二月号の記事をごらん下さい。この記事は私が何度も述べてきた事柄を含んでいません。すなわち「自分はよく知っていると思っている人の多くは、状況の一面しかつかんでいない。それでその場合はゆがめられた知識なのである」あらゆる問題の両面を考えるようにして下さい。米国のある右翼のグループが自分たちの主眼を立証しようとして事実を完全にゆがめていることがわかるでしょう。彼らはシート板の一方の端に等しい重量がかかってバランスがとれないかぎり他方の端へ極端に走ることは危険だということに注意を払っていません。

△注▽ 右の別掲記事というのは、一九六三年十月二十七日付のロサンジェルズ・タイムズ紙に掲載されたポール・コウツ記のユニセフ（国連の国際児童緊急基金）に関する記事の転写を指す。それによると、米国のある種の右翼団体がユニセフを激しく非難するパンフレットをばらまいて、ユニセフは共産主義者に利用されている無神論的性格をもつ陰謀団体で、スパイ行為をなしており、集められた金は実際に貧民にわたっておらず、ユンゴにおける国連軍の作戦に消費されたり、百万ドル以上もの金が中共に渡されたりしたと主張しているのにたいして、筆者コウツは、かかる非難は全くのでっちあげで、ユニセフは多くの実績をあげていると種々の実例を述べて、無神論どころかローマの教皇庁が常駐の代表を派遣していると反ばくしている。

高度に進化した遊星から来て  
地球で生まれかわった人が墮  
落するのはなぜか

C. A. ハニ

各種の円盤関係書でわれわれは、特殊な目的を遂行するためかまたは人類に益するため、この地球で生まれかわる、兄弟”について読みます。多数の人はこの、兄弟”を天使または宇宙人と同等視しています。そして、空飛ぶ円盤同乗記”と、空飛ぶ円盤の真相”から、高度に進化した遊星から来た人たちが種々の理由で地球上で生まれかわることを知っています。

このよい例は金星から地球へ来て生まれかわったイエスです。彼は生まれかわりを行なった多数の人のなかの一人であって、現在もこれと同じような多数の人が地球に住んでいます。この人たちの正体は概して隠されていますが、少数の場合、本人の仕事の性質のために知られることがあります。

過去の歴史をふり返ってみますと、こうした人が多数いたことがわかりますし、われわれは本人たちの行為によってそのことに気づきます。ところが大抵の場合、彼らは最後には長いあいだ伝えてきた教えから離れて、指導権をとるために自我に従いました。一例としてブラヴァツキー（注。ロシアの神知学者。一八三一—九一）とベサント（注。英国の神知学者。一八四七—一九三三）の生涯を調べてみますと、両者とも多年の誠実な奉仕の後に、いかに高遠な目的を離れたか”がわかります。同様な例は哲学の分野にも明白に見えています。そしてそのた

めにきわめてよい疑問が起こってきます。多数の人も現在この疑問を起こしています。すなわち、進化した遊星から来て地球で生まれかわったと思われる人が、なぜかくも容易に道はずれて元の教えに背を向けるのか？ 彼らは高度に進化した段階にいたというのなら、低い段階にあるわれわれよりも自我の欲求に強く對抗できるはずではないか？ といった問題です。ひとつこの問題を分析して真相をただしてみましよう。

一応説明のためとして、一から百までに及ぶ発達を計る尺度があるとしめます。普通の発達段階にあるこの地球上の一般人はその尺度で十の位置にあります。ところが進化した遊星から来て生まれかわった人はその尺度で五十のところにあつて、ときおり偉大な教師が地球で生まれかわって尺度の九十ないし百の位置を占めています。とにかくこれはただ説明のために仮定した空想上の尺度にすぎないということをおぼえて下さい。

さてここに一人の「リーダー」が進化した遊星から来て地球で生まれかわり、子供から大人に生長しながら普通の人生をすごすと仮定します。当然われわれは彼が多くの偉業をなしとげること期待するかもしれません。この人はその目的を見事になしとげながら五十年ないし六十年をすごすでしょう。するとわずか数ヵ月または数年で本人は突然人格を変えて全く異なる人間になります。そして自我に打ち負かされて、かつては自分の主義に反していたあらゆる種類のたくらみや考えをもつようになります。この場合最もわるいのは、本人は明らかに自分の変化に盲目であつて、自分以外の人間はすべて間違つていてと考えることにあります。これはなぜでしょうか。

問題を調べてみれば解答はきわめて簡単です。たとえ問題の当事者が高度に「いわば尺度で五十ばかり」発達していたとしても、本人はかつての材質と全く相反する材料で作られた一つの監獄のなかへ生まれたのです。この監獄というのは生まれかわってきた地球人としての肉体を意味します。この肉体は地球に属する細胞から成り立っていて、それだけでも長いあいだ地上に存在してきた不調和の印象がしみ込んでいます。各細胞はそれ自体がかつて出会ったことのある体験すべての消しがたい記録を運び、この印象を当事者のセンスマインドへ伝えることができます。本人がこのような「家（肉体）」に長く住めば住むほど、ますますその影響を受けやすくなってきます。すると本人は自分の自我と戦わねばならないばかりか、自己の肉体細胞や周囲の環境から襲いかかってくる誤った印象のすべてと戦わねばなりません。

本人は尺度五十で地球に生まれたとしても数年後にはおそらく十ないし十五まで逆行するでしょう。そこでまた一度地球に生まれかわるとすれば、本人は死の前までに達していたその十ないし十五で出発するでしょう。ところがもしその仕事が完成して本人が以前の五十から十ないし十五まで逆行しても、本人は元の遊星で生まれかわって以前の場所へ帰るでしょう。地球上で得た体験は自己の潜在意識に埋められてそれを思い出さないでしょう。

さて、高度に進化した遊星から地球へ来て生まれかわった人の問題に返ることにしましょう。この地球では本人は前生で事実として信じ知っていたあらゆる物事に相反する考えや印象に襲われます。加うるに、自分の周囲の人々や苦しい環境などによって幼年期から洗脳されます。そして大抵の人々よりも周囲の印象にも

っと感受的となり、誤りをおかす機会をよけいにもつようになり  
ます。

他の遊星から宇宙船で地球へ来る大人たちは、自分に向けられ  
る誤った印象のいずれにも反発する能力をもっています。彼らは  
尺度の低い人よりも高次の印象に同調するのです。しかし多年の  
あいだ地球にとどまるならば、彼らといえども次第に地球人と同  
じ影響下に入るかもしれません。すると彼らも真の道からはずれ  
ることになるわけです。

これが高級な遊星と地球とのほんとうの相違です。進化した遊  
星は調和によって高次の段階にあります。細胞の印象はより高い  
性質を帯びていてこのために望ましくない力はほとんど存在し  
ないのです。

円盤研究の書籍類はこれを『高周波のもとに動いている』とい  
っていますが、もっと正確にいえば『彼らは高い進化の段階で生  
きている』といえるでしょう。このような遊星の周囲をとりま  
いでいる巨大な印象帯は、その住民の高度な想念や考えを反影し  
ています。

高度な遊星から来て地球で生まれかわった人は、一般人よりも  
多くの印象を受けがちであるために、自分がすぐれた人物である  
と考えやすく、少しばかり自我が顔を出してきますが、この小さ  
な自我の台頭は容易に拡大することもあります。そのために低次  
な印象が忍び込んでくるのです。するとこの過程は本人がきわめ  
て低い段階に降りるまで続き、ついには地球の一般人と何ら異な  
らないようになってしまう。

ところが本人が尺度の最底段階にまで降りて自我のとりこにな  
ってしまったてもなお多くの印象を受けます。しかしこれは高い  
源泉から来る印象ではなく、自己の周囲の世界や自分自身のセン  
スマインドから来る印象です。本人にはこれが正しい印象のよう  
に見えるのですけれども、これは本人の地球上の肉体を作り上げ  
ている細胞やミネラル（そしてそれらの放つ印象）を完全に混和  
させているからです。本人はもはや選別したり、望ましくない印  
象を捨てたりする能力をもちません。そうした低次の印象を拒絶  
するかわりに、それに従って行動しますので、あとは混乱が起こ  
るばかりです。

疑問が起こるかもしれません。これが真実とすれば、高級な遊  
星から地球で生まれかわったたのでもない、尺度で十くらいにすぎ  
ない一般地球人にたいして、なぜ右と同様の事が起こらないのか  
と。それは起こっているのですが、この場合は二、三の異なる事  
柄があります。一つは、地球人は印象を『聞きとる』方法を知っ  
ていないので、ほとんどの印象は本人が気づかぬままに通ります  
てしまい、最も強い印象だけが本人に作用するのですが、それさ  
えも通常は潜在意識層で行なわれているのです。

加うるにわれわれはこの程度の人間のなかに想念の選択をして  
いる人を知りませんが、これは本人の受ける印象が本人の前生の  
存在と行為と一致していて、一般大衆から本人を引き離さないか  
らです。ところが進化した遊星から来た人は地球の一般人にとっ  
て正常と思われる悪習におちいるたびごとに、それが前生の自己  
の行為に相反するというのでただちにそれを発見します。ゆえに  
本人は一般人よりも目立つのであり、そのまま容易に注目され

るわけです。

多数の人が特殊な役割を果たすために進化した遊星から来て地球で生まれかわり、そして自分ではそのことを何も知らないで生涯をすごしているという事実を見のがしてはなりません。この人たちは自分の目的を果たしますが、それをなすために地球で生まれかわったということを意識的に全然知らないのです。彼らは他の遊星上の生命の存在を信じないでしょうし、円盤問題に興味をもたないかもしれませんが、本人の真の目的をよく知っている同じ仲間たちに注目されるでしょう。

自我（エゴ）とは、いかに高く進化していようとまれでも戦わねばならない何物かです。このことは高度に進化した遊星の人にも等しくあてはまります。ある人は宇宙船で地球へ運ばれて、地球人のあいだにまざりながら五十年をすごすかもしれません。しかし、だいたい七年ごとにその人の全身は地球のミネラルやその他の物質で変えられてしまい、あたかも最初から地球で生まれただかのごとく、異国の家（全然別な肉体）に幽閉されてしまいます。すると本人はこのために不利な条件を付せられて、進化の段階から引きずり降ろされ、「悪の道」にそれることもあります。本人は誤った考えと不正行為という大海のまったなかで住むことになり、年月がすぎゆくにつれてますますつまずき、墮落するようになります。

リーダーまたは教師と称する人によって行なわれるすべての物事に、なぜわれわれはきわめて注意深く耳をかたむけてそれを評価しなければならぬかという理由が少しあります。あなたはそれを自分で考えて下さい。過去の実績のいかんにかかわらず、い

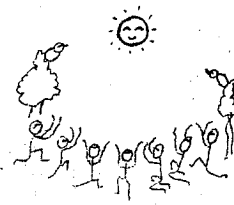
かなる人にも盲従しないことです。

かつて本誌に連載された「円盤問題における心霊的な詐欺行為」と題する記事をお読みになされた方は、「サイレンスグループ」またはわれわれの啓蒙運動に反対するグループなどによって応用される「心霊的な方法」の多くをご存じでしょう。彼らはきわめて巧妙であって、「可能ならば特に選ばれた人をさえも」容易にだましうる方法を用いています。彼らは特にリーダーや教師として地球に来ている人に力を集中しています。この特殊な圧力の存在こそ、一般人はうまく対抗できてもある種のリーダーが墮落するかもしれない原因なのです。

真理にたいするこの「反対勢力」は、人々をだましたり支配したりするためかなり精神的な方法に頼っています。彼らは大いに催眠術を応用していて、ひとたび一個人を支配下に引き入れるや、こんどは逆にそれを積極的に利用し始めます。概してこのことは高度に発達した人に見られます。というのは多くの矛盾と誤りが彼らの著作または講演などに忍び込んでいるからです。残念なことに、彼らは自分でこのことに気づいていませんし、また自分の誤りを隠す完全な精神的な防壁をもっています。本人が目覚めて自身の誤りに気づくまではどうすることもできません。

反対勢力の多くのリーダーは熟練した催眠術師や心霊術師たちです。彼らにかかる方法によって他人の意志を破壊することに良心のか責などを感じはしません。一般の記事で、人々が遠方から他人の精神的な力であやつられる事実の科学的な証明を私は与えました。これは私が遠隔催眠術と名付けているものです。あやつられる被害者はそれに気づきません。真相は以上です。

=====  
質 疑 応 答  
=====



C · A · H = 1

問 1 アダムスキー氏が当地(デンマーク)へ来たとき、米国のある大学(複数)では、空飛ぶ円盤の真相に述べられたような特殊な数学をもっていると言いました。それは現代の数学よりもはるかにすぐれているということであり、私自身が数学の教師であるところから、それを研究してみたいと思います。ゼロというものが無いので、ポジション・システムとは違うようです。その問題に関する文献がありますか。詳細な情報をお知らせ下さい。(デンマーク、B・J)

答 あなたはアダムスキー氏のいったことを誤解しているようです。かかる数学がどこかの学校で用いられているとすれば、私の耳に入るはずですよ。加うるにそれに関する文献が私のとり次いでいる図書の中に見当りません。アダムスキー氏は「その数学が学校で応用されるとよい」といったのにながらありません。

問 2 あなたはなぜトーマス・ペインの著書を推せんするのですか。彼は無神論者です。あなたは神を信する人ではありませんか。ペインの著書はどれもたしかに神を否定しています。(ウィ

スコンシン州、D・B)

答 トーマス・ペインは無神論者ではありません。彼の偉大な著書「理性の時代」の冒頭に次のように述べてあります。「

「私は一つの神を信するだけである。私はこの世ならざる幸福を期待する。私は人間の平等を信する。そして宗教的な義務は、正義を行ない、慈悲を愛し、同胞を幸福にするように努力することなどに存すると思う。」

しかし、右以外の雑多なものを私が信じていると思われるはいけないので、執筆が進むにつれて私が信じていない物事、それを信じない理由などを述べるつもりである。

私はユダヤ教会、ローマ教会、ギリシア教会、トルコ教会、プロテスタント教会、その他私の知るいかなる教会の教義をも信じない。私自身の心が私自身の教会である。

ユダヤであれ、キリスト教であれ、トルコであれ、すべての国家的な教会組織は、人類を脅迫し、奴隷化させ、権力と利益を独占するために設けられた、人間の発明以外の何物でもないように見える」

ペインは無神論者ではありませんでした。彼は教会から無神論者と呼ばれましたが、これは彼が教会と同じ態度で神を信じることを拒んだからです。彼は神の法則を信じたのであって、人間の作った法則を信じなかったのです。

問 3 私は「オリオン」という遊星と交信したいと思います。どんなふうにして行なえばよいでしょう。太陽電池はどうでしょう? (ミシガン州デトロイト、D・G)

答 あなたはだれかにだまされています。私が知るかぎりこんな



遊星は存在しません。存在したとしても、それと交信することはできないでしょう。あなたが他の遊星の人間と交信しようとしてもそれはだめです。もちろん、その住民があなたと交信することとにきめているのなら話は別です。しかしその場合は宇宙船に乗って飛来し、直接に会見します。進化した他の遊星の住民は地球人と交信するのにテレパシー、無線、光線などを利用しません。

問 4 あなたがとり次いでいる多くの書物のなかにはジョン・パーチ協会が推せんしているものもあります。しかるにあなたは同協会を攻撃しています。(注。ジョン・パーチ協会というのは米国の狂信的な極右団体。数年前十数名で発足し、現在の会員は百万と称せられる)同協会の会員になるには徹底的に身元調査が行なわれます。狂信者は入会できません。あなたはこの米国の建国の父たちを狂信者と呼ぶのですか。彼らも自己の信念のために喜んで死のうとしたのですか。(アーカンソー州リトルロック、Z・J)

答 私には米国の建国の父たちを狂信者と呼びはしません。ジョン・パーチ協会は狂信者を望みはしないでしょうが、同会のメンバーの多くは狂信的であるという事実は存在しています。私がかつて発表した記事で用いた「真に信する者」という語は、何かの大義を信奉しようとし、必要とあればその大義名分のために命を投げ捨てようとしている人を意味します。

こうした人は戦ったり恐怖したりする相手が必要とします。もし共産主義が今日死滅するということになれば、彼らは明日は新しい敵をもつでしょう。これは自分自身の不安定な生存のために必要なのです。

問 5 一九五四年のフランスにおける円盤着陸事件で小人たちが目撃されたという事件を説明して下さい。もちろんそれは近くの遊星から来た人間であるかもしれませんが、この「小人」たちは別な太陽系から来たものではないでしょうか。(スウェーデン、プロマ、S・T・H)

答 アダムスキー氏の著書類に説明してあるように、多くの異なる体格の人間が近隣の各遊星に存在しています。これは地球人のあいだでも同様です。もし他の遊星の人間が地球へ来て気づかれないうで住もうとすれば、地球人と同様の姿態の人だけが選ばれます。しかしその使命が科学的なもので、地球人とまざり合う計画がなされないならば、かかる選択は行なわれません。

こうした探険のなかには機体の故障から不時着しなければならぬ場合があり、そうしたときに一般地球人よりもうんと小柄な乗員を見ることがあります。金星から来た人々は一般地球人の平均身長よりもだいたい背の低いのが普通です。それで金星の宇宙船には他の遊星の宇宙船よりも小柄な乗員が乗っている向があります。

こうした「小柄な乗員」は他の太陽系から来る可能性もあります。しかし可能性はあっても実際にさういうことはほとんどありません。なぜなら地球の近辺に来る宇宙船のほとんどはこの太陽系内の各遊星から来るのであって、他の太陽系から来る宇宙船は通常地球その他近隣の遊星を回避しているからです。

問 6 アダムスキー氏が肉体の魂はミネラルでできているというのは、一般にまだ知られていない何かの物質を意味するのですか。(フィンランド、ボルヴァー、J・R)

答 この質問に答えるのには、まず意味論に関する問題が起こってきまず。多くの人は同一の語にたいして異なる定義をくだして、そのためにときとして一つのポイントを議論し合うのですが、論者同志が互いに理解し合っていたならば、同一のものを全く同じように語り合うことになるでしょう。

「肉体の魂」についての私の定義によれば、私はそれがミネラルでできたものとは考えません。それはミネラルでできた感覚器官を通じて現われています。私にとって「肉体の魂」とは「人間の肉体の性質」です。あなたの現在の意識的な記憶はこの肉体の魂の一部であって、ミネラルでできた脳細胞中に「力」または「電気的に蓄積されたエネルギー」として存在しています。

センスマインド(肉体の心)については、かつて「センスマインド」とソウルマインド」と題する記事で詳細に説明しました。

問 7 宇宙人は地球の自転軸の急激な傾きが遠からず起こるといつているようですが、この傾きの完了にはどれくらいの期間を要するのですか。一日? または一週間? それとも一カ月? (イングラント、バックス、C・P)

答 私は知りません。いつ起こるか、どれくらいの期間を要するかはだれにもわかりません。傾きの進行期間を数年間と計算した学者もいますし、九十分間で完了するという専門家もいますが、たしかなことはだれも知りません。

問 8 イエスの誕生日は十二月二十四日または二十五日といわれていますが、ポター博士著「イエスのなぞ」には別な日付が出ています。ご存知ならばイエスの真実の誕生日について解答を与えて下さい。(ニューヨーク、T・C)

答 イエスの誕生日についてはわかりません。これについてはかつて「現代の宗教の起源」と題する記事で、これまでにかかっている唯一の知識を伝えました。(注。本誌一九六三年三月・四月号に掲載) われわれが聖書中の物語を証拠として受け入れるならば、次のような結果に至るための基礎をもつことになりました。

「イエスが生まれた当時、羊飼いたちは羊の群れを監視するために夜間は野外にいた。羊は寒冷な雨の多い冬が始まる前に野外からつれもどされたが、その冬は十月ごろに始まった。それからみてもイエスは十月前に生まれた公算が大であって、右の証拠によっても彼は十二月に生まれたのではない」

実際には十二月二十五日という日付は太陽神の誕生日として数千年間伝えられました。これはまた次の伝説的偉人や神々の誕生日にもなっています。エジプトのパッカス、ギリシアのアドニス、ギリシアのパッカス(別なパッカス)、インドのクリシュナ、シナのチャン・ティ、カルデアのクリス、ペルシアのミトラ、インドのサキア、古代英国で十字架につけられた救世主ジャオ・ワバルその他です。

歴史的にはキリスト降誕祭は初期のキリスト教会で行なわれませんでしたし、新約聖書中に言及されてもいません。五世紀にローマ教会は、ソル神の誕生を祝う古代ローマの祝祭日に、キリスト降誕祭を公的なキリスト教の祝祭日にせよという布告を出しました。聖書中のクリスマスに関する唯一の遠まわしな言及は、エペソ書十・一から十・六のあいだに見えています。ここにはクリスマス・トゥリーについての完べきな記述があります。そして人々はこの習慣に従わないようにと命じられています。すなわち、

「異邦の人の道に習ってはならない」大抵の人は聖書を人生の道標として用いることを主張しながら右の個所を無視しています。しかし自分の奉ずる特定な宗派と一致する聖書中の部分は受け入れて他の部分は無視するというのは、社会のきわめて普通の習慣です。

問 9 かつてあなたは多くのコンタクティ（宇宙人に会ったと称する人）の主張を支持しないと述べました。あなたが支持するコンタクティの氏名を列挙して下さいませんか。またコンタクト（宇宙人との接触事件）は依然として各地で起こっていますか。（コロラド州デンヴァー、J・L）

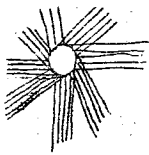
答 世界OAPの会員中に定期的にコンタクトしている人が多数います。これらコンタクト事件のほとんどすべては秘密にされていますので、全然公表されません。それゆえ私が支持するコンタクティというものは、すでに体験記が公表されて円盤問題に関心ある人によってよく知られているコンタクティに限ります。

私が支持するのはセドリック・アリンガムとその体験記（注）、「続空飛ぶ円盤実見記」と題する邦訳版が高文社から出ている）及びジョージ・アダムスキーとその著書「空飛ぶ円盤実見記」<sup>2</sup>、空飛ぶ円盤同乗記<sup>3</sup>、空飛ぶ円盤の真相<sup>4</sup>（いずれも高文社刊）です。以上の各著書以外のコンタクト・ストーリーは裏書きするのに必要な証拠をそなえていません。しかしこの問題について私の意見はさほど重要ではありません。あなた自身で考えて、どれが試練にたえるか、そうでないかを自分で筋道を立ててきめるべきです。

問 10 あなた宛に出した手紙で、あなたのコンタクトについて

もっと詳細な情報をお願いしましたが、これまでご返事がありません。しかしこれは多くの人が興味をもつ情報です。この問題について詳細をお知らせになる機会がありますか。（ミネソタ州セントポール、B・F）

答 その機会はありません。以前に述べましたように、この情報を提供するのに必要な証拠物件を私はもっていません。私の考えでは、コンタクト例というものは何らかの証拠物件が得られるまでは詳細を秘密にしておくべきです。今日この分野で困るのは、必要な証拠をもたない多数のコンタクト例が存在するという事です。この結果起こるのは混乱だけです。そして数年後には大衆はコンタクトしたと称する本人と真実の宇宙人の計画とを混同し、コンタクトの元の主張が正当化されるために、大衆はその他のコンタクト例までをも無差別に盲目的に受け入れるようになり、本人の主張を裏書きする証拠を求めようとしない傾向があります。その主張の性質いかんにかかわらず、または初期に起こったコンタクト例と一致しない点があつたりしても、コンタクトしたと主張されるすべての例に大衆は興味をもつようになるのです。



## イエスはなぜ

### 歴史家から無視されたか

C. A. ハニ ー

イエスの時代の三百にのぼる史書のいづれも、イエスに関する事柄や彼の行なつた奇蹟について全然言及しなかつたという事実をご存知ですか。イエスの生涯のただ一つの出来事さえも、彼の側の偏見をもつた伝記作者たち以外にはだれ一人として記録していませんでした。この事実から一つの結論が引き出せます。すなわちイエスの生涯は本人を魅力の中心にするのにあまりにも不十分であつたのです。

当時のローマ人や政府に関してイエスが行なつた出来事が実際にあつたとすれば、それが当時の大歴史家に注目されなかつたとは考えられません。ローマやギリシアの歴史家、または当時のピロ（注。アレクサンドリアのユダヤ系ギリシア哲学者）やヨセフス（注。ユダヤの歴史家）などもイエスについては全然書き残してはいません。この二人の学者は当時に発生した宗教的・社会的な事件のすべてを克明に記録したのですが、イエスだの救世主だのといふことは一言もいっていません。

多くの人はいうでしょう。「それは間違っている。ヨセフスはイエスについて述べている」と。よろしい。この問題をとりあ

げてみることにしましょう。彼の著作はイエスをはっきりと言及されているかどうかの唯一のケースであるからです。キリスト教の初期の時代に、エウセビウスという名の一クリスチャン著述家がいきました。彼の持論によれば教会の発展のためにはウソをついてもかまわないというのです。彼は目的が手段を正当化すると信じていました。エウセビウスのころよりも以前にさかのぼるヨセフスの著作中にはイエスについて何も書かれていません。それはエウセビウス以後に現われてきますから、多くの学者は偽作を彼のせいにしていきます。偽作が彼によるものかどうかはだれにもわかりませんが、いづれにしてもそれはありうることです。なぜならエウセビウスは自分の見解を支持するために証拠をでっちあげたのを別にわるとは思わなかつたからです。

ヨセフスの著作中にあるこの偽作は、今日キリスト教信仰の最も熱心な擁護者によって認められています。とにかく初期の文献がイエスについて言及していないという事実そのものは、これ以上の証拠を必要とすることなく始めの結論を立証しています。この証拠はオリゲンという名のクリスチャン著述家の著作中に存在しています。彼はヨセフスはキリストについて何も語らなかつたと述べています。しかも彼はヨセフス以前に生まれた人ですから、彼の記述は当然真実だつたということになります。

イエスの側の例の四人の伝記作者マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネは、イエスの死後少なくとも百九十年間は史実に出てきません。当時の別な注目すべき人物はクリスチャン著述家のイレネウスという人でした。なぜイエスは歴史家によって認められなかつたか？ここに驚くべき解答があります。

イエスの伝記は本人が地上に生きていたあいだに書かれなかつたということが認められています。イエスの地上の生涯の歴史は目撃者と称する人によつては書かれませんでした。イエスに関する物語のほとんどは実はイエスよりも数百年以前に書かれたものであつて、それが長いあいだ語り伝えられたのです。途方もないことのようにですが、少なくとも三十五名の救世主が存在したのであつて、それらはみな天空から降りてきて、世を救うために死に死からよみがえつて再び天空へ帰っています。この救世主たちのうち十六人はイエスと同様に十字架にかかり、処女の母から生まれ、同じような奇蹟を行ない、同じぐう話を語り、同じ教えを伝えました。これは多数の国々で発見された文献の伝説によるもので、紀元前千七百年にさかのぼります。

(著者注。現代の宗教上の儀式や教義の起源に関する多くの事実を、先に連載した記事『現代の宗教の起源』で述べました。この文はその記事によつてよこされた質問に答えるために書かれたものです。)

古代メキシコ人は、無原罪懐妊、十字架へのはりつけ、三日後の復活の伝説をもっていました。ヒンズウーの文献によれば、インドのクリシュナはやはり無原罪懐妊によつて生まれたことになつています。クリシュナも先に述べた十六人の救世主の一人であつて、イエスと全く同じ出世、死、昇天の歴史をもち、しかもイエスよりも千二百年前に生きた人です。

ここにクリシュナの在世中の出来事を少しあげてみましょう。  
1. 処女の母から生まれた。  
2. 母と子は羊飼ひ、賢人、天使のような人の訪問を受けた。  
3. 支配者たる暴君カンサはすべての

初生児を殺すように命じた。  
4. 母と子は河の水を二分して出現した河底を逃げて。  
5. クリシュナは砂漠へのがれる。  
6. イエスがヨルダン河で受けたように、ガンジス河でバプテスマを受けた。  
7. 理想化され、そして「自分はいつもあなたがたと共にいる」といった。  
8. イエスと同様に女から油をそそがれた。  
9. そして少なくとも三百種の別の類似点がある。

これと同じ伝説は他にも多くあります。イエスは十七番目の救世主なのであつて、他の伝説に従つたわけです。彼は存命中に自分を神の子だと称したことはありませんでした。自分が神性をもつ人間だなどといったことはないのです。

イエスが彼の時代の歴史家によつて無視されたのは、彼が比較的知られていなかったのと、その死後長いあいだ神にされなかつたためです。今日われわれは彼が人々を助けるために金星から地球へつかわされてきた偉大な教師であつたことを知っています。世界中の多数の国々で多くの教師が出現したのと同じです。現在イエスと同じ仕事をするために、高度に進化した遊星から多くの人が地球へ来ています。

一人間がこの世から去つてしまつた後、長い年月が過ぎてからどのようにしてこうした伝説が本人について書かれるようになるのでしょうか？ 他の歴史上の人物について述べられた物語を調べて、その経過を考えてみるとよいでしょう。ここに一例があります。

アレクサンダー大王について多くの史書が詳細に伝えていますが、きわめてくわしく書かれたもの、または彼の生存中に書かれたものなどは、かなり正直な物語を残していますが、キリスト以後に

書かれた史書から大王について読んでみますと、大王の死に際して太陽が暗くなり、地上は暗黒に包まれたと述べた文章などがあります。

シーザーの死に関して死後に書かれた記事を読んでみますと、*「シーツをかけられた死者」*が墓から起き上がったと述べてあります。*（ヴァージルの記事より）*ピタゴラスの伝記作者ジャンブリクスによりますと、ピタゴラスは空中を歩いたり、嵐を静めたり、死者を蘇生させたりするというような奇蹟を演じたとあります。これらのいずれも本人の在世中に書かれたものではありません。

先にも述べましたように、古代のクリスチャン著述家たちは、*「神の栄光」*のためならば、*「ウソをつくことは罪悪ではない」*と信じていました。ある学者連はパウロも次のように述べてこのことに言及していると考えています。「しかし、もし神の真実が、わたしの偽りによりいっそう明らかにされて、神の栄光となるなら、どうして、わたしはなおも罪人としてさばかれるのだろうか。*（ローマ人への手紙三・七）*」「むしろ『善をきたらせるために、わたしたちは悪をしようではないか』*（わたしたちがそういっていると、ある人々はそうしている）*。彼らが罰せられるのは当然である*（同三・八）*」

右でパウロは自分がウソをつくために神の真実が明らかにされるのだといっています。しかし彼は神と真実のためであるという教訓に従ってウソをついたのですから、それはよかったです。彼の時代の人々はこのウソに気づいていて、それを非難しました。それでパウロはその非難を打ち返しています。

イエスの伝記を書くときがきたとき、教父たちが狼狽したのはイエスの記録が存在していないということでした。イエスは著作を残していませんし、目撃者のすべてはとっくの昔に死んでいました。そこで彼らは旧約聖書中にイエスに関するものと思われる予言類を発見したのですが、それが実現したという証拠をもちませんでした。しかし自分たちの信仰や信念に従って、彼らはその予言類が実現したにちがいないということを知ったのです。当時に存在していた各国では、あらゆる神々の偉業に関する伝説が伝えられていました。この諸伝説は長いあいだ議論されてきたまぜにされ、特定の国の神に似合うように改編されたのです。

たとえば旧約聖書中に、あるしつと深い支配者から自己の生命を守るために国をのがれた子供に関する箇所があります。これが旧約中にあつたために、古代の筆者たちはそれがイエスのことわっているのだと思ひ、そのためヘロデ王からイエスと両親がのされる物語が作られたのです。当時の史書はかかる事件を全然述べていません。しかもローマ人はすぐれた史家であつたのです。

もしこの古代の筆者たちが真実の歴史をもっとよく知っていたならば、彼らは右の物語が実際にはイエスのことをいっているのではなく、邪悪な支配者カンサの手からのがれたインドのクリシユナに関する物語であることを知つたでしょう。十字架上のはりつけの際に地上が暗黒になつたという物語についても、同じことがわかつたでしょう。ヨエル書の原文がこのような事件を語つたと思われたために、彼ら筆記者たちはそれをイエスの死にしてしまつたわけです。それも実はクリシユナの十字架上の死の伝説から伝えられたのです。

イエスよりも数百年前に、世界のほとんどあらゆる宗教国で伝説として伝えられていた奇蹟的な物語はすべて聖書中であって、イエスのものとされています。しかしどの奇蹟もイエスより数百年前に語られていて、しかも他の「救世主」たちのものとされていたのです。そしてイエスが述べたとされている教義や教えはすでに遠い昔から伝えられていました。キリスト教はなにも新しい教えを起こしたのではないのです。

これはべつにキリスト教の教えがだめだというわけではありません。多くの教えはきわめてすぐれています。ただそれらがイエス独特のものではないという事実を述べたにすぎません。それで結局、生命と死に関する宇宙人の説明がおそらく正しいものであるという可能性はますます強くなっています。

現代は多くの新事実が発見されて大衆の前にもち出された時代です。過去におけると同様、多数の人は旧来の古い信念や伝説に相反する事柄と戦うでしょう。寛容な餓えた心をもって真理を求めめる人たちは、自身の考えに一致しない物事を調査し探究するでしょう。

一八七五年に出版された「十字架につけられた十六人の救世主」と題する書物があります。これは以上に述べた記事の内容をもっと詳細に解説しています。各家庭の必読の書といえるでしょう。私の考えでは、これは最も興味ある書物の一つで、宗教的な儀式や教義を述べた「二つのバビロン」ほど無味乾燥なものではありません。

## 子供の教育法

C · A · ハニ

今日多くの憂慮をともしなう問題として、子供を教育する適切な方法があげられているようです。私はこの問題に関する多数の質問状を受け取りました。この記事はそれに答えるために書かれたものです。

現代の青少年問題の多くは、多数の両親の行なっている誤った教育法に直接つながっています。これは世界で最高の青少年犯罪率を示している米國で特に真実です。連邦検察局の J・エドガー・フーヴァーによれば、この率は今後ますます増加するだろうということです。

他の諸問題と同様に、一般の両親は必要な改良手段をとるのに、それを他人に頼るようになっていきます。彼らはこの悩みをなくするための法案が通過するのを望んでいます。彼らは自分がこの問題に責任があつて、問題の背後に存在する原因を排除するための具体的な措置をとらう人間なのだという考えをもつていません。それが実際に意味するのは次のとおりです。すなわち十代の少年少女を含むほとんどすべての現代の問題の背後にある基本的要素を一つの事柄に帰着させることができます。それはいわゆる「進

歩的教育”です。

米国内の多くの州では、子供の非行にたいして学校が体罰を加えてはならないという法律があります。このために教師が非行少年から暴行されるという事件が発生しており、矯正手段についてはなすすべを知らぬほど無力になっています。ある場合は子供を矯正しようとした教師たちにたいして、怒った親たちが訴訟を起こしたこともあります。

進歩的教育とは何でしょう？ これについては各人各様の考えがあるのでしょうが、私のいいたいのは次のとおりです。これは青少年に加えられるいかなる型の抑圧も彼らの精神的な生長をゆがめ、自然の個性を破壊し、コンプレックスを与えらると思われれる場合の青少年教育法です。

次の説は近年に多くの心理学者によってとなえられる手引です。「言葉または暴力、またはやわらかな叱責などのいかなる型の処罰にせよ、それは全く賢明ではない。処罰の主な危険は、それが子供に罪の感じを起こさせる、すなわち『自分は悪くて、わんぱくなのだ』と感じさせる点にある。本人は自分の行なう他の物事よりも自分の活発さについて一そう強い罪悪感をもとうとする。

本人の考えは漠然としていて混乱しているが、想像力は旺盛である。彼は自分のわんぱくのために起こるかもしれない恐ろしい物事の心像を作り上げるかもしれない。こうしてますます恐怖と心配のタネをまくことになり、感情のもつれを増すのである」

右の引用は、処罰が子供の活発さについて罪悪感を起こさせるとすれば、しっかりした注意を向けなければならぬと主張する現代の青少年指導専門家によって述べられる典型的な例です。し

かしこれでは子供は善悪の観念を発達させることができないでしょう。何が正しくて何が誤っているかを教えられることもないでしょう。こうしたいわゆる専門家は、非行少年は一定の年齢に達すれば自動的に望ましい性質のすべてを身につけ、望ましくない性質をなくすものだと思っっているようです。しかしこれは完全に間違っています。前記の結論の裏にひそむ誤りを見出すのにさほど頭を必要はありません。むつかしいのは、知的で教育があると思われている人々がいったいどんなふうにしてこうした無処罰主義を裏書きして促進することができるかという点にあります。

資本主義国を打ち負かすのに必要な手段を概説している共産党宣言において、『義務教育』が十大問題の一つになっていることをみれば、前記の結論は少々明らかになってきます。この特殊な結論（義務教育）は現在米国の法律になっていますが、心配は無用です。共産主義者が世界を征服することはありません。地球に住んでいる多数の宇宙人もそうならないように懸命に努力しています。今日社会の真相を見出すのはきわめて困難です。なぜなら各国の大衆にとどく情報のはほとんどは、政府が発表する前に内容に関して注意深く準備されるからです。

さて元の論点に戻りましょう。私には、『進歩的教育法』に見られる多くの誤りをこれ以上かぞえあげる必要はありません。それは時間をかけて調べた人には明らかかな事です。この記事の読者も詳細をご存知のことと思います。さいわいなことには、ある教育家連は進歩的教育法の誤りに気づき始めていて、できるかぎり状態を改良しようとしています。ただ工合がわるいのは、だれしも



数年間甘やかせておいたあとで子供を突然教育し始めてもよい結果を期待することはできないということです。

これについてのよい例は、私が数年前知っていた一少年です。

この子が始めて二、三の言葉をおぼえたとき、たどたどしい言葉をくり返して発音するのが両親にとって全く可愛いくてならないというふうでした。客があると、それを子供にいわせようとして五セント白銅貨や十セント銀貨を与えたりしました。しかし大きくなると子供の言葉に可愛いらしさがなくなってきました。だが一夜のうちにお金を与える習慣をやめるには遅すぎたのです。読者はこの両親の悩みを容易に想像できるでしょう。

これは子供の育て方について最も重要な面を指摘しています。教育を始めるのは出生時なのであって、六週間または数ヵ月後ではありません。規律というものが応用されるべきであって、しかも正しい規律でなければならず、そしてそれは子供が生長して家を離れるまで続ける必要があります。

正しい規律とは何でしょう？ それは怒りでなくて愛から起こってくる矯正です。この点で児童心理学者は軌道はずれていきます。彼らはいかなる矯正といえどもそれは、怒りと欲求不満の感情による叱責だと考えています。

「学校、家族、両親などから期待されるとおりに行動しようとしておかす子供の失敗は、母親または父親にとって苦しいつらい経験である。両親は自分たちの最も重要な仕事に自分たちが失敗したという深い意味を感じる。そこで子供ばかりでなく自分自身にたいして怒りと不快感とを爆発させるのである」

右は矯正の手段というものは常に怒りまたは欲求不満によって

なされるといふ仮定の代表的な例です。たしかに体罰の誤用が多く起こっています。これは正しくありませんので、行なってはなりません。だいたい体罰というものは拷問やぎやく待である必要は全然ありません。子供を縛りつけて放置したり、タバコの火で皮膚を焼いたり、血を出させたりするようなやり方は、悪い行為にたいする処罰とは関係のない加ぎやく性いん乱症のあらわれです。正しい方法はこの記事の終わりで述べますが、まず私は子供の教育法に関するほとんどの書物に見られる別な共通の誤りを指摘したいと思います。

典型的な誤りの例はゲッセル、イルグ共著の「子供の発育」と題する書物に見い出されます。それは私が調べてきた他のすべての書物によく似ていて、次のように述べています。

「生長しつつある正常な子供のすべては、自分の年令に相応した一定の型の行動をとるといわれる。またあらゆる年令層のすべての子供は一定の段階を通過し、自分たちがただある年令に達しているというだけで、ある種の態度で振舞うのである。

生後十八ヵ月の子供は『こうせよ』といわれた物事にことごとく反することをしようとする。『こちらへ来い』といわれると逃げようとする。彼は言語による命令に全然服従しようとしなない。前方へ進み出るかわりに後方へ歩くのである。

三十ヵ月になるとこの子供は小さな独裁者となる。彼は屈服したり、しばらく待つことなどしない。きまりきった一定の仕事に執着する。何かが欲しくなればそれは『いま』でなければならぬ。彼は権力を振るって要求する。

六才になると横暴になり、議論をし、ものをねだり、いばり、

おどかし、いじめ、けんかをしたりする。八才になると本人は忙しくなつて、物事を頼まれてもそれができない。すねたり、不平をいったり、いいわけをいったり、盗んだりする。ところで、もし本人が家の金を盗めば、これはその年令の特徴をあらわしているのである。

十才になると気むずかしくなり、十一才では粗野で理屈っぽくなる。十五才では手ごわくなり、十六才では突然に楽しそうに善良で、道徳的で友好的になり、おだやかにさえる。あらゆるトラブルは終わり、ついに母と父はかなりなことを知っているということに気づく。

いうまでもなく右の行動の型はすべて全くばかげた説でナンセンスです。知性あると思われているおとなが、事実として右のような説を述べたということを読者は信ずるのが困難でしょうが、これはほんとうのことなのです。図書館で調べてごらん下さい。

たしかに子供たちのなかには、よくない環境または両親の監督の不届きにもかかわらず正しく生長する者もありますし、反対に両親の立派なしつけを受けながらも悪の道にそれるものもあります。これは地球へ生まれてくる以前の個人的な進化の程度によるのです。各人はそれぞれの理由をもって地球で生まれます。おそろく個人の行動と見解についての一定のレッスンを学ぶためにのみ生まれてくるのでしよう。子供が正しい道にそつて導かれるか否かは両親の責任です。そしてこれが、子供が発達の段階を登るのを早めるのです。

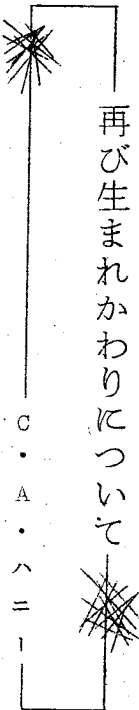
体罰は憎悪からでなく愛からくることもあると私は述べましたが、これは真実です。しかし絶対に怒りでもつて子供をたたいた

りしてはいけません。むしろ子供の行為を静かに説明し、それが悪かった理由、そのために処罰されねばならない理由などを説明してやりなさい。軽くたたいてやるのが自然の成り行きとして必要な場合はたたきなさい。刺激するような物を用いてもかまいませんが、傷をつけてはいけません。こうすれば子供は数ヵ月で矯正できますし、「いけない」という言葉の意味を教えられることになるのでしよう。

とにかく両親は断固たる態度を示すことが重要なのであつて、あとになってから子供に負けてはだめです。子供がその「いけない」という意味を正確に理解して生長するならば、両親から一度聞かされただけで、処罰の必要なしに両親の言葉に従うでしょう。これについて私がすすみたい本は、ホームマン著「小枝が折られるとき」という書物です。この書はあらゆる年令層の子供を正しく罰するのに多くの詳細な指導法を述べています。

さきほどあげた誤つた行動の各タイプを忘れないで下さい。それはあなたが子供にしつけをしない場合にのみ真実なのです。正しくしつけられた子供はそんなふうに行動しないでしよう。子供が大きくなるにつれて、たたいたりするかわりに束縛というものが子供に課されてよいでしよう。この方法は有効です。この数年間、私は自分の子供たちにたいして束縛を加えたのは二度だけでした。この小さな子供たちは「いけない」という言葉を聞きさえすればすなおにそれに従います。彼らはわけのわからぬことをいったりはしません。そしてみな正常な健康な子供です。彼らは自分の考えで行動し、「いけない」といえばただちにやめます。

## 再び生まれかわりについて



C. A. ハニール

私がこれまでに論じてきた話題で最も重要な論議的になったのは、生まれかわりの教義です。それは科学的な筋道の通った説であって、それを実証するのに豊富な証拠が存在するというのに、そうあるべき理由がはっきりしません。

この説については一つの大きな見解の相違も存在しています。しかしそれは進化した他の遊星の人類によって事実と確認されていますし、過去の真に偉大な教師すべてによって教えられてもいます。進化した遊星の人々は種々の生涯を通じて人間の生まれかわりを追求できたのであって、その結果生まれかわりはもはや「別問題」ではなく、証明された事実となっています。それは結局万人によって認められねばならないものなのです。

アダムスキー氏の記事『永遠に生きるためには』(注。本誌今年九・十月号に掲載)のなかに再検討されねばならない二、三の声明が出ていました。おそらく問題になるのは言葉の語義論でしょうが、多数の人はその記事に困惑して誤った印象を受けたようです。そこでこの際、生まれかわりについてももう少しはっきりさせることにしましょう。

まず一つつつまずきのもとになるのは、生まれかわりを調査し

ようとする人の方法にあるようです。これは前生に関する「記憶の喪失」に関係があります。A氏の記事では、もし三十億の人間が地上から突然一掃されたら、その約九十九パーセントは永遠というものを決して知らないだろうと述べてありました。これによって多数の人は、人間は別な生涯に生まれかわる機会もなく、永久に消滅してしまうという意味なのだと考えたようですが、そういう意味ではありません。そこでこの特殊な問題から始めてゆきたいと思います。

過去の生活を記憶するとはいったいどういうことなのでしょうか？ かりに同じような知性と環境とをもつ二人の人間が、二人ともまだ全然研究したことのない問題に関する記事を読んでいるとします。その記事中のあらゆる思想はAの人には親しみをもって感じられるのに、Bの人には何ら意味をなさない複雑な迷路しか見い出せません。Aはその記事を気楽に一気に読みますが、Bはそれを読了するのに悪戦苦闘しなければなりません。Aは理解するのにBは理解できないのです。理解力と能力とにおける相違の起こる理由は何でしょう？ 以下はその解答です。

Aなる人が記事の内容をきわめて容易に吸収してそれを信ずることができるとは、実は本人が前生でかつてそれを学んだことがあって、その記憶が本人の潜在意識のなかに埋められているからなのです。本人は記憶をもっているのですからきわめて楽に身につけます。必要なときには引き出せるように存在している過去の知識を取り返すことを行なっているにすぎません。

ところがBの人が困難に感じるのは、本人の過去世の体験が現在の研究内容を含んでおらず、それを引き出すための記憶をもた

ないためです。「直感力」と「洞察力」はどこからわき起こるのかわからないような感覚ですが、実際には過去の知識の貯蔵庫から発しているのです。

生まれかわりを信ずることのできない多数の人は、ここで特別なポイントをもち出すでしょう、「人間が前生を生きていたとするならば、なぜ自分たちはそれを思い出せないのか？」と。この懷疑論者たちは現世においてさえ過ぎ去った出来事の記憶を表面にはっきりと思い出せないという事実を完全に忘れています。幼少期におけるさまざまの出来事を克明に記憶している人はほとんどいません。しかし正しい刺激の状態であれば、だれでも通常は完全に忘れられている過去の出来事を完璧に思い出すことができます。

特殊な知識をもつ人は、自己の全生涯のあらゆる出来事が潜在意識層に記録されることを知っています。催眠術にかけるとこの記憶のすべてが出てきます。この結果、過去世の記憶は全く容易に潜在意識層のどこかへ隠されるということがわかりますし、しかもこれは実際に行なわれているのです。前生の記憶は潜在意識のなかに隠されて、ソウルマインド（魂の心）の一部として存在します。正しい刺激を加えれば、これを潜在意識層へ引き出すことができますのです。しかし人間の現世の記憶と同様に、このことはめったに起こりません。したがって、人間は自己の現世における幼少期の多くを思い出すことさえできないのに、どうして前生の物事を思い出すことができるでしょう。しかし自己の前生を思い出せないという事実は、なにも人間が「失われて」未来の生活をもたないということの意味するものではありません。

人間は自分自身を「現存する、独立した、しかも肉体の内部に住む一つの知性体（知性ある力）」と考える必要があります。人間は現世の肉体を離れて別な肉体へ入り込むことができるのです。このことは「死、及び生まれかわり」として知られている過程によって行なわれます。実際に起こる様子を例を用いて説明してみましょう。

ある一つのソウルマインド（魂の心）をAと名づけることにします。Aはジョン・ドウという名の家（肉体）のなかに住んでいます。彼はこれを幾年か続けます。するとジョン・ドウは死んで、ジム・ブラウンとして知られる新しい家（肉体）に生まれかわります。数年後ジム・ブラウンは死んで、Aはジョー・スミスとして生まれかわります。ジョー・スミスが死ぬと、Aはあなたとして生まれかわります。あなたは「真実のあなた」すなわちあなたのソウルマインドがAであることに気づきません。あなたは自分が実際には人間の肉体として知られている一つの物体のなかに住んでいる。Aであることを知らないのです。あなたはただ自分自身を名前のつけられた一肉体だとしか考えませんし、ジョン・ドウやジム・ブラウンやジョー・スミスなどのそれぞれの生涯について何も思い出しはしません。

もしあなたが前生（複数）を詳細に思い出せるほどに高く発達するとしても、あなたは学ばれたレッスンとして役立つ出来事のみならずより強烈な記憶だけを思い出すでしょう。宇宙的な価値をもつ体験類だけを思い出すでしょう。前生の大部分は思い出せません。というのは、この現世における幼少期と同様に、大部分の出来事は深い印象を与えるほどに重要でないからです。

人間が意識的に思い出す部分は、「センスマインド」と呼ばれます。このセンスマインドは肉体に属するもので、肉体とともに生まれ、肉体とともに死滅します。先にあげた例で、ジョン・ドウ（自我または個性、すなわちセンスマインド）はジム・ブラウンではありませんでした。ジム・ブラウンはジョー・スミスではありません。これらのセンス・マインドすなわち自我のすべては肉体の死とともに終滅します。右の例で、「A」と呼ばれる、存在の背後にある知性的な力（ソウルマインド）は右の三者にとって共通した同一物なのです。だからこそ「真のあなた」すなわちあなたのソウルマインドは不滅であるのです。「真のあなた」すなわちソウルマインドは名前につけられた一個人または肉体ではありません。

ソウルマインドは前生（複数）の潜在意識的な記憶を運びますが、通常は顕在意識層にあらわれません。センスマインドは現世の潜在意識的な記憶を運びますが、通常は顕在意識層にあらわれません。これらの記憶のいづれも思い出されることはまれであって、実際には思い出す必要はほとんどないのです。通常、過去の記憶の回復は役立つというよりもむしろ混乱と損傷をひき起こします。

ソウルマインドは次に似たような方法ですべての過去世の完全な記憶を運ぶとよいでしょう。すなわち、ソウルマインドはそれ自体があたかも傍観者であったかのようにジョン・ドウが体験した物事を記憶しているのです。ソウルマインドはジョン・ドウの体験があたかも別人にたいして起こったかのようにそれを記憶しています。そして宇宙的な価値をもったジョン・ドウの体

験はソウルマインドと融合しながらジョン・ドウの一部として保留されます。これが、センスマインドは宇宙の法則と一致するようになされねばならないと、これまで私が述べた意味です。このために不滅であるソウルマインドはジョン・ドウ、ジム・ブラウン、ジョー・スミスの各小部分から組成されます。こうしてこの三人の自我すなわちセンスマインドのおおのは実際には幾分存続します。あとの部分はソウルマインドの潜在意識層に永久に埋められて思い出されることはありません。こんなふうに自我すなわちセンスマインドが宇宙的な性質を帯びた物事を全然学びとらないならば、それは意識的に存続しません。たとえほんのわずかであっても、生まれかわるたびに何事かが学ばれるならば、ほとんどすべての場合に何らかの「持ち越し」が体験されます。ある生まれかわりで十パーセントが持ち越されて、次の生まれかわりでその十パーセントが持ち越されるならば、元のセンスマインドの約百分の一だけが存続します。（十パーセントの十パーセントですから）

このことは、あなたができるかぎり多くを研究して、生命のあらゆる面とその意義についてできるかぎり物事を学ぶのに重要です。今世において学ばば学ぶほど来世には容易になってきます。前進すればするほど多くを持ち越すことになるのです。結局、あなたはセンスマインドの大部分を持ち越すことになり、それ以後はそれが（持ち越されたセンスマインドの大部分が）ソウルマインドや宇宙の法則と真に融合するほどに宇宙の諸法則と一致することになるのです。

人間すべての求める目標は、われわれのセンスマインドを百バ

1セントまでソウルマインドまたは大霊と融合させることにあります。そのときこそれわれれば自分が、宇宙の意識を得て、創造者と一体になったと考えることができます。(現在の肉体を作り出した英知ある力とは大霊です)

そこでいえるのは、あなたが前生を思い出せないかぎり、それはあなたが前生に存在しなかったのと同じだということです。あなたが思い出すまでは、あなたの過去の正体は死滅していて、実際には存在しません。しかしこの記憶の喪失はあなたが前世に生きたことがないという意味ではありません。もしあなたがこの地上を去って再びここに生まれかわり、現在自分がだれであるかを思い出さないならば、現在のあなたという人間は実際には存在を中止するでしょう。来世においてはあなたは異なる名前と環境をもつ全く異なる人物になりますので、現在の肉体のソウルマインドは来世の肉体のなかにあっても変わりませんが、来世の肉体のセンスマインドは新しい人物に属する新しいセンスマインドになります。

この問題について私が実際に感じることを理解していただくために、以上の件をあえていろいろの表現によってくり返し説明しました。おわかりのように、ある場合は読んで理解するのは困難であるばかりでなく、説明するのも困難です。加うるに英語には制限がありますので、適切な語を見い出すのが容易ではありません。

しかし右の考え方を理解することは重要です。そうすればあなたは混乱しなくなるでしょうし、現在の困惑を請らすこともできるでしょう。それで、私の説明を理解するのに何らかの困難が生

じる場合は質問状をよこして下さい。回答をいずれ機関誌に掲載します。

またもしこの複雑な問題がどうしてもわからないときは、問題の箇所について自分の考えを紙に書いてごらん下さい。これはあなたのソウルマインドがあなたに解答を与えるのを助けるでしょう。それは感覚器官の束縛からソウルマインドをある程度解放するのにも有効となります。紙の上に自分の考えを書くことによつてセンスマインドをまぎらしなさい。そうすればソウルマインドがかわって働くのが一そう容易になってきます。



市川市 中島 望

前略—人間は宇宙よりの恵みがすでに与えられており、この恵みこそあなたがもっておられる自由にして無限な思想的意識そのものなのです。

しかるに人間は伝統という因習や環境という習慣のとりことなり、また支配階級(政治、宗教、科学、経済)の規格に規制され固定されると、人間の自由な無限意識が死んでしまい、全くのロボット化する生物となりさがってしまいます。霊の永遠を理解できなくなるばかりか、不幸をまねく原因さえ理解分別できぬ意識になります。これが今日の世代ではないでしょうか。

### 誌友からの便り

運命とはいったい何でしょう？ これは永遠を理解できない人間が発する言葉であり文字であって、自由な無限意識を認識できないか、または固定化されている死せるものではないでしょうか。人間の生と死とは何か？ この答を満足に与えてくれる人はありません。自由な無限意識の が、答えてくれる唯一の師であると私は信じています。生とは自由な無限意識が一人一人の人間の誕生として出現してくることであり、死とは自由意識と無限に続く思想が全く失われたか失われつつある過程であるかのいずれかです。

高山市 小林 達蔵

久しく御礼のお便りもいたしません、いつもニューズレターを御送付下さいます御好意まことに有難く存じます。

アダムスキー氏の言葉、また他の遊星の人たちの悟りの上からでなくては到底表現することのできないすばらしい言葉は、あまりにも多くのことを私に教えてくれました。それらは「真実というものはたとえ言語表現が異なり時代の流れがあろうとも、常に唯一であり、真実であることに何の変わりもない」ということを私に教えてくれました。その呼び名は宗教といい、また科学といおうとも、そこには同じ真実があり、同じものをただ表現と手段をかえて現わしているにすぎないと感じるものであります。

厚木市 和田 道隆

先日は私の切なる願いをお聞き下さいまして本当にありがとうございます

ございました。見ず知らずの私にかような厚い御好意を、また何を求めるでもないあなたの熱情とに対し、深く感謝いたします。今までかくも知られざる宇宙の本源とその多くの法則に今こそ目が開いたような心地です。またA.P.ニューズレターには驚き入る記事ばかりでしたが、この興味深い記事には大なる関心を寄せざるを得ません。

広島県 加藤 知行

ぼくたちのクラスの（中学校の）主任の先生は生物の先生ですが、つい最近アメリカで発表されたプラナリアを使ったおもしろい実験について話されました。それは再生能力の強いプラナリアを使う記憶の実験で、記憶をとどめておくのは脳だけではなく、細胞も関係するらしいこと、また学習させたプラナリアを無知なプラナリアに食べさせて消化器官から記憶が伝達することについて述べられました。これらのことからアダムスキー氏のテレパシーの科学的な裏付けが次々と立証され、くるにつれ興味深く思っています。

函館市 大塚美津子

先日お送り下されたニューズレターにはA氏の新しい教えやその他の有益な記事に満ちており、すばらしい糧になりました。本当にニューズレターには慰められ励まされ、これを一人でやってもらえる久保田様にはいつも感謝しております。また私の母もニューズレターが届くとすみずみまで読み、しきりにうなづいており、愛読しております。

## 月面の不思議な赤色光

ロサンジェルズ・タイムズ

一九六三年十一月一日付より

ロウエル天文台が三十日に発表したところによると、最近月の表面に三つの鮮明な爆発現象—おそらく火山の爆発と思われる—が観測されたという。

この観測は同天文台内の米空軍航空地図情報センターにいる二人の月面観測員によって行なわれた。彼らは通常は色のない月面にあざやかな赤色を発見して不思議な異変を知った。

同天文台の責任者ジョン・ホール博士は「この報告は科学界で大論争をひき起こすだろう」といった。

この爆発現象（複数）は同天文台の二十四インチ反射望遠鏡を使用して航空地図情報センターのジェイムズ・グリーネイカーとエドワード・パールによって二十八日の夜に二十分以上にわたって観測された。

この三つの現象はみな月の北西部にあるアリストタルクス火口の付近で発生した。兩名の語るところによると、三つとも明るいルビーのような赤色で、いずれも径二マイルくらいだったという。

月面の火山活動の有無については長いあいだ科学上の議論の的になっていて、過去十年間に火山活動と思われる例が三回だけ報告されている。右の発見は眼視観測によるもので、写真は撮影されなかった。それでもこの新発見は充分に証明できるとホール博士は述べている。

（編者注）過去十年間に月の火山活動らしき現象を発見した例で顕著なのは、一九五八年十一月三日、ソ連のクリミア天文台でユズィレフ博士が、アルフォンヌス火口を観測中に大きなガス噴出をみつけたのと、同博士によって一九六一年十一月末に数回にわたってアリストタルクス火口でガス噴出を発見した事例です。

当時米国はこれにたいして否定的でしたが、今回の発見でかなりのショックを受けた様子です。この噴火（と思われるもの）の正体には二通りの説があって、一つはガス説、他はマグマ説（どろどろに溶けた岩しょうが噴き出たという説）で、学界で論議の的になっていますが、たしかなことはいわかりません。

こんどの発見で一躍脚光をあびた米空軍航空地図情報センターは近い将来、一九七〇年までに人間を月へ着陸させる計画のもとに、月面着陸用として百万分の一縮尺の月面図を作成するため、セントルイスにある同センターの技師をロウエル天文台へ派遣していました。そして同天文台の望遠鏡で月を観測しながら月面写真を修正する仕事を行なっているのですが、今回の現象はその最中に偶然発見されたものです。

一方、人間着陸にそなえて米国では月面着陸地形の偵察用として六台のカメラをもつレインジャー六号を近く打ち上げる準備をすすめています。レインジャーの発射は過去五回とも失敗していますが、こんどはかなり改良されていますので、うまくゆけば驚異的な情報が入ってくるでしょう。ただし米政府が正直に発表すればです。それにしてもアダムスキーが「実見記」を出した当時月が生きているという説をとなえた学者は皆無であったことを思えば、隔世の感があります。



## テレパシー講座

1

C・A・ハニー

### △注意▽

1 学習法 家庭での研究における最も重要な要素は、学習を定期的に続けるということです。毎日研究のために一定の時間をさいて、そのスケジュールどおりに行なって下さい。一週間のうちたった一日だけ八時間行なりよりも、毎日四十五分間行なりほうがはるかに有効です。一回の学習に長時間をかけないようにして下さい。そして研究には一定量のきびしい熱意を必要とします。レッスンのために嫌気がさしてきたときには、ただちに研究を中止して下さい。それ以上行なっても得るところはありません。ときどきくり返して読むことは、最初に読んで不可解なままに通りすぎた個所を明瞭にします。

わずらわしい個所に多くの時間をかけないようにして下さい。充分な努力をしてもなおかつ理解できない部分があれば、一時それを保留して先へ進んで下さい。こんなふうにして次々と得られる知識は難解な点を明瞭にすることがよくあります。

2 研究中はノートをとること この講座から最上の結果を得るためには、鉛筆とノートブックを用意します。講座を読み進むにつれて、あなたが受ける印象のすべてをかたっぱしから書きと

めて下さい。一時に多量を読まないことです。最上の結果は、一ページ分を読んだあとで次ページへ進む前に受けた印象のすべてを書きとめることによって得られます。

講座全部を読み終えたならば再び読み返して下さい。すると今度はあなたの印象が変化していて、しかも最初の印象とまざっていることに気づくでしょう。これは自己発達の過程です。更に数度読み返して、そのたびに自分の印象をノートにとって下さい。読むたびごとに新しい印象を受けます。これは読むにつれて自身が高くなります。向上してゆくことを示すものです。このようにしてあなたは実際には自分自身の教師になっているのです。常にノートをとることを忘れないようにして下さい。このノートをときどき読み返して、それがどんなふうにして互いにまざり合っているかを調べて下さい。そして講座からもはや新しい印象を受けなくなるまでこれを続けて下さい。

あなたが書きとめたノート類はあなた自身が作った書物になっていることがわかるでしょう。あなた自身の開発を続けるには、研究を行なうにつれてノートの作成の仕事も続行することです。そうすればあなたは生き続けるかぎり他人の援助なしに自身を開発し続けることになります。あなたは現在の自我にたいする教師として、自身の真実の自我を用いることになるのです。以上の方法を応用するならば、人生のあらゆる分野における学習に終わりというものはありません。

3 試験 各課題を徹底的に研究して下さい。一レッスンの研究を終えた後にただちに答案を書かないようにして下さい。一日ばかり待ってみて、テキストを見ないでうまく解答できるかどうか

かを考えてみて下さい。テキストを見ないで全課題の七十五パーセントが正解に達しなければ、もっと研究しなおす必要があります。

価値があるのは成績ではなくて、いかに多くを実際に学んだかにあります。あなたが与えられた方法で研究できなかり、役立つことがわかっているメソッドを応用できないとすれば、それはただ自分自身を傷つけることになります。この講座からいかに多くを学びとるかはそのあなたの態度次第です。

4 採点法 試験は次のように採点されます。

正解	九十五	百点	優
	八十五	九十五点	良
	七十五	八十五点	可
	七十点		及第

六十九点以下の場合には再試験をすることがあります。再試験での及第点は七十五点です。

### 開講にあたって

研究とは何でしょう。読書は研究ではありません。これは研究の習慣を身につけるに際して、あなたが避けなければならぬ第一番の落とし穴です。昨今は印刷物が激増していますので、大抵の人は乱読の習慣を養い、読んだもののほとんどをただちに投げ捨てています。これは通常潜在意識的な習慣となっていて、こうして得た知識は普通の場合二十四時間以内に忘れられてしまいま

す。

二番目の危険は過度の読書によって起こります。読書を過度に行なえば人間は文章を大ざっぱにのぞき見るだけの習慣を発達させて、内容の概略だけしか吸収しません。

三番目の落とし穴はわれわれの現代の生活法にあります。現代文明は高速化していて、このスピードは年々増大しています。一般の研究者は自分のコースを始めるにあたって、最大限のスピードで進もうという考えでわきたっています。本人はコースの肉だけを食べようとして大急ぎで基礎を通り抜けようとしています。コースを完了し得ない独学者のほとんどは自己の失敗を「あせり」という過失のせいにしてよいでしょう。

基礎のレッスンを急いで通り抜けようというあせりを静めるのは困難です。教師は極端な急ぎを容易に見つけることはできませんが、それを本人に悟らせるのはときとして困難です。もし教師がそのことをぶっきらぼうに指摘するならば、研究者は興味を失って放棄するかもしれません。

テレパシー、宇宙哲学、宇宙科学などをマスターするのは、根本的な基礎の応用以外のなものでもありません。あなたが基礎をマスターすればするほど、それを応用するのがますますうまくなってくるのです。

### 読書が研究でないとするれば、研究とは何か

研究とは知識を得るために何かの問題へ心を応用することです。それは個人の努力によって特定の問題の知識を獲得する行為をまた

は過程であり、未来の応用にそなえて心中に知識を貯蔵することです。

以上に述べた方法に従って下さい。そして乱読の危険を避けるようにして下さい。特に一時にあまり長く研究しないことです。講座の内容を吸収するあなたの能力が増大するにつれて、研究時間を二時間くらいに伸ばすとよいでしょう。これがだいたいの最大限です。心の労働は肉体の労働と全く同じほどに疲れるものなのです。過労を感じたり自分の心が迷い始めたりしたならば、中止して休息して下さい。以上の事柄をときどき思い出して下さい。さあそれでは研究を始めましょう。あなたがとりかかる各ステップは、あなたが求めている成功への道にそった確実な過程です。

### 第一課

この新しい講座は現在世界中にひろめられつつあります。それで、参加して、宇宙を支配している法則について多くを学ぼうというあなたの決心は賢明です。

この講座には基礎的な諸原理を含んだテレパシー（精神感応）、宇宙哲学、すなわち生死の関題と人間がこの世に生まれた目的に関する宇宙人の説明、あなたが新しく得た知識を日常生活に応用する方法などについて述べてあります。

テレパシーは読心術ではない

一般の考えとは異なり、テレパシーは読心術ではありません。それ以上のはるかに多くのものを含んでいます。文字のとおりにいえば、それは一つの生命体から他の生命体への「感覚または印象の伝達」です。自然のあらゆるもの、あらゆる動物、あらゆる植物や、あらゆる細胞などはこの天賦の能力をもっています。われわれは人間としてのレヴェルに達していないのに、この自然の能力は自然界のほとんどで用いられています。そして、われわれが人間を見るとき、その能力が隠されて気づかれない状態にあるか、またはある場合は誤用されて元の目的からゆがめられていることがわかります。

人間は多くの先覚者によって「活動する想念」と呼ばれてきています。しかし一般人はきわめて狭い理解力しかもたぬために、自分にあてがわれたよき物事のほとんどを破壊してしまつて、かわりに混乱、苦惱、心配、恐怖などをつくり出しています。

この講座は懐疑論者のために生と死の神秘を解明せんとするものではありません。またあなたの生活の諸問題すべてを解決する参考書でもありません。あらゆる現象の背後には人間の完全な理解をこえた一つの宇宙の英知が存在します。ですから、生命とか創造の始まりに関する多くの問題は解決できないのです。人間らは人生の行路を進むにつれて知識と理解の面で生長を続けるのでしようが、これ以上の知識は存在しないという点に達する終着駅はないでしょう。しかし人間は来世におけるより大いなる表現体にならねばならず、自己を準備するでしょう。

数千年を通じて多くの真実の知識が存在してきましたが、人間のみの理解力の不足と迷信のためにこの知識を吸収しませんでした。

古代人はあらゆる現象を靈または神々のあらわれとみました。容易に理解できない物は、超自然的な力と信じられた不可視の実体に結びつけられました。

もしだれかが未来の出来事を予知する能力をもって生まれたならば、二つの物事のうち一つが起こるのが常でした。その人が自己の時代の支配的な宗教勢力の一部分であれば、本人は神の代弁者と呼ばれ、選ばれた人として崇拜されました。ところがもし教会に關係がないという不幸な立場にあれば、悪魔と結託している。ことにされて、責め苦を受けたり死に至らしめられたりして、ついには自己の主張を撤回させられました。たとえ教会の異端審問官が本人の氣持を無視して訴訟手続き中にその生命をとりあげねばならなかったとしても、それは本人の「魂を救うため」の彼らの義務であると考えていました。悪魔の代理人として本人の魔力は拷問により追い出されたのです。

ブルーノは科学をもって教会に反抗したために火刑柱で焼かれました。ガリレオは本人の科学的な諸発見を撤回させられました。これが、これはその諸発見が神を汚したと教会が考えたためです。魔女として焼かれた人々のなかには、それを焼いた同じ教会によって後に聖女にされた例もあります。ジャンヌダルクがそれでナ。

(注。ジョルダノ・ブルーノ 一五四八—一六〇〇) は、ルネサンス期イタリアの哲学者。ミラノに生まれ、十五才のころナポリのドミニコ派修道院に入り、そこでスコラ哲学のほか、古代及びアラビアの哲学、科学に親しみ、また当時の人文主義者や自然哲学者の学説とコペルニクスの地動説に接して感銘を受けた。正統の信仰に甘んぜず、異端視されるや、一五七六年法衣を捨て、

ヨーロッパ各地を放浪して地動説をひろめた。北イタリアからフランス、イギリス、ついでドイツその他にわたり、各地で反スコラ哲学の講義や論戦を行なった。九二年帰国、異端者として逮捕され、七年間の宗教裁判にも自説をまげず、一六〇〇年ローマで火刑にされた)

テレパシーは古代の宗教家によって魔法とみなされました。今でもさへそのように考えている人があります。これが決定的な事実であることが科学によって立証されたにもかかわらずそのようなです。

一八八五年に心靈研究協会は次のような声明を發表しました。

「普通の感覚器官の正常な働きをかりないで遠方から感受される印象の発生例すべてを表現するために、当会は「テレパシー」なる語を使用する」

テレパシーにたいするひどい考え違いと誤った定義の結果、科学は少なくとも五十年間研究を中止しました。実際にはそれが全く人間の働きの一部であるのに、普通の感覚器官以外の神秘現象だということにしたのです

#### テレパシーは宇宙語

テレパシーは実際には普遍的なものであって、自然の万物を通じて流れています。それは「宇宙的な力」の一部で、絶えず活動しており、当然一物体から他の物体へそれ自体を伝達させると思われまます。人間においては、われわれはそれを「感覚衝動」と呼んでいます。実際宇宙のあらゆる原子はこの言語を語り、理解す

ることができるとは、

一般人のすべてはものを考えることができるのであり、われわれはこの働きを『意識的な思考』とっています。意識的な思考という言葉を使用する場合、それは何を意味するでしょう。もし人間が何かについて意識的であるならば、それは人間が何かの知識をもっていることを意味します。それが潜在意識のなかで起れば、人間は表面の意識層でその知識をもたないことになり、それゆえ意識的な想念とは、人間が完全な知識をもっていてその発生に知覚的である場合の思考です。人間のゴールは、人間よりもはるかに高いレベルから発する想念に同調する能力を発達させることにあります。

テレパシーは宇宙の諸法則の一つである

宇宙の法則とは何でしょう？ 多数の人がこうした質問を発しています。あなたはこの講座をマスターし終えたとき、それを理解して多くの宇宙の法則を応用する力が身についているでしょう。右の質問にたいして適切な解答を与えることはできません。なぜなら宇宙の諸法則はきわめて多くの分野と生命の多様な面を含んでいるからです。この諸法則の意義を明確にし、それを自己の理解の分野にもたらずには、多くのレッスンと多くの土台とを必要とするでしょう。

多くの宇宙の法則はそれを知っている関与者が介入することなしに毎日応用されています。自然の法則のすべては宇宙の法則です。テレパシーも自然の法則の一つですから、それも宇宙の法則

として分類されます。

テレパシーは今日多数の人によって考えられているような読心術ではなくて、それは想念伝達の一方法であり、人間は毎日これを用いて生きています。人間は他人に話しかける前に、まず心に言語とアイデアをかたちづくらねばなりません。大抵の人にとってはこのことが潜在意識的に行なわれます。それは脳によって潜在意識的にコントロールされる脈搏にたとえてよいでしょう。加うるに人間の心は肉体の筋肉運動のすべてを指図しますし、それはまた広大な想念波動の海のなかに絶えず沈められていて（この海は根本的には電磁気的なものです）、個人による先入観に適合するところの印象だけをフルイにかけて通過させます。そして、やってくる新しい考え方はいずれも排除されて、大抵の人にとってはこの新しい考え方は潜在意識層にひそんでしまいます。そこで人間は結果の世界のまんなかに生きていて、絶えずその世界によって導かれるということになります。

今日の一般人はロックンロールを流している放送に同調したラジオ受信機に似ています。受信機というものは同調した波調以外の電波を増幅はしません。同様に人間も自己の思考傾向以外の印象類は概して受けつけないのです。

もしある人が知識と進化の階段を高く登っていない場合は、本人は『知識と進化の階段を高く登っていない』印象類に同調します。本人の心は高次の物事よりも、自己の理解力のレベルにある物事をはるかに容易に受け入れるのです。

このことは人間が習得中の進歩過程を判断することのできる一方法です。人間は進歩するにつれて印象を得ることが次第に容易

になり、高次のレヴェルから来る印象にハッと気づくようになるからです。しかしわれわれは絶えずそれらの印象を監視し、それが自然の法則と高次の原理及び目的にかなっているかどうかに従って、常にその印象類を選択する必要があります。

人間の周囲にある宇宙的な源泉から何かを引き出す能力を発達させる具体的な方法はいずれ本講座で述べることになります。これを習得すれば結果の世界はあなたから退き始めて、あなたは結果から結果へ渡り歩くかわりに、原因から結果へ直接歩くようになるでしょう。

しかしわれわれはあまりに遠くへ前進する前に、従わねばならない道のための適当な基礎をきづかねばなりません。これらは初学者にとって最も重要なレッスンなのですが、この講座を学び始める人には通常ほとんど必要がないように思われるでしょう。

### 正しい基礎が必要

この講座がテレパシーの実際的な説明やその理論の解説の方向へ急速に進行しなくても失望しないで下さい。正しく学ぶためには、入門そのものから出発して、従うべき道筋にたいする確固たる基礎をかためる必要があります。あなたが各レッスンを充分に吸収しうるために、この基礎は小さな歩みから次第にきづかれねばなりません。講座をすすんでいったあとであなたは急速に進歩していると思うでしょう。いま基本的な概念が確実に把握されるならば、講座の深部へ入ってゆくときにその進歩はうんと容易になってきます。

この基礎の一例として磁気とフォース・フィールド及び基本的な電気と電子工学の説明をする必要があります。その理由は、想念は本来電磁気的なものであって、テレパシーのほんとうの説明は電磁気学を含む説明に頼る必要があるからです。この講座の第一課または第二課がすぎたあたりから、そろそろ右の基礎を少しずつ解説してゆく予定です。

二人の人がこの講座から全く同じ結果を得ることはないでしょう。あなたがた各自が自分自身のレヴェルにあるのであって、研究するにしたがって、それぞれ少しずつ異なる概念をつかむかもしれませぬ。しかし講座中に述べられる諸原理は、個人の理解力に応じて全読者に平等に働きかけます。

記憶すべき第一番の基礎は、人間の理解力のなかでは宇宙には始めも終わりもないということです。宇宙はあらゆる形態、あらゆる知識を包括し、永遠の活動であり、それ自体のなかに不活動の状態をもちませぬ。

### 人間はなぜ他の創造物と異なるか

人間と他の高等な創造物のあいだには大きな相違があります。人間は推論する能力をもっています。人間以外の高等動物は低い程度で推論することができますが、人間は最低のものから最高のものに至る宇宙の表現のあらゆる状態を結局は理解する能力をもつて創造された唯一のものです。

この生得の権利を応用しないで、人間は創造者よりも自分を高い位置において、周囲に見えるものを審いたり非難したりします。

人間とその創造者とのあいだには大きな割れ目が存在していて、多くの失敗に通じる分離感を人間に与えています。しかしこの感情は人間が進化と知識においてより高く登るにつれて克服され、やがて人間は創造者及び万物との一体性に気づき始めるようになります。われわれは一つの例を除いて自然の万物が創造者と完全に調和して働いているのがわかります。一つの例外とは人間です。人間こそは自身を生み出してくれた宇宙の諸法則をゆがめている唯一のものです。

この講座では宇宙的な法則を包含する点にまで進歩している人と、結果の世界をいまだに利用している程度の人とのあいだを区別するために、『宇宙の人間』と、『地球の人間』という言葉を使用することにします。われわれは常にこの両者からテレパシクな印象を受感することができるのですが、宇宙的な人間から来る印象と、ほとんど理解力のない人間から来る印象とを分離させることができません。

われわれは自分が受感する印象類の性質を観察することによってこれをなすことができます。地球的な人間から来る想念は、分裂、区別、非難、個人的感情などを含んでいますが、宇宙的な人間から来る印象はこんなものを含んでいないで、理解や同情などを伝えます。そこには審きはありません。

この研究はあなたの現在の宗教信仰にいかなる影響を与えるか

さきにも述べましたように、テレパシーは宗教信仰または宗教

ではありません。それは一つの宇宙の法則です。これが意味するところは、テレパシーはあなたの現在の宗教信仰に干渉するものでもなければ、聖書の教えのいずれにも矛盾するものでもありません。あなたがテレパシーのすべてに関して理解力を発達させるならば、あなたは自身の理解力をより大きく飛躍させることができます。あなたはやがて自分の住む宇宙との正しい関係を心に描くことができるようになるでしょう。

この講座で使用される言葉の定義

われわれが人生で直面する諸問題の一つは、二人またはそれ以上の人間のあいだで行なわれる伝達法です。そしてそれについての基本的な問題は言語の意味論に関する問題です。私が『肉体の心』という場合、人々のなかには私が何をいつているのかを正確に理解するのが困難な方もあるでしょう。そこでこの際、困難をひき起こす言葉の意味を定義しておくことにしますから、それらの言葉が講座中に用いられる場合は、私自身の定義に従って用いられることとなります。ですから私がくださった定義にしたがうことにして、他の辞書や参考書などを引用しないようにして下さい。次にその例を少しあげておきます。

△ センスマインド √ 人間の感覚器官で作られられた心を意味し、通常は『肉体の心』ともいわれています。これは聖書でも人間の『カール・ソウル（肉体の魂）』と呼ばれています。この肉体の心は死滅すべきもので、イエスが教えたように、宇宙の法則に順応するように仕向けられねばなりません。この肉体の

心は肉体の出生とともに生まれ、肉体の死とともに死滅します。

△ソウルマインド√ 魂の心。これはときとして、「大霊」と呼ばれる心、すなわち肉体の死後も生き残るところの個人の一部分であり、ときに「真の自己」と呼ばれる「真の潜在意識」です。それは肉体の奥にある英知であって、全なる英知（神または最初の因）の一部です。

△エゴ√ 自我。各人の私または自身で、感覚器官またはセンスマインドで作られています。あなた自身をほめたたえることは、あなたのエゴを賞揚することになります。

△エゴティズム√ 自己中心主義。自分自身についてあまり考えすぎることで、うぬぼれ、自慢、利己心などを意味します。

以上の各用語については今後のレッスンを例をあげて詳細に説明します。あなたは肉体のセンスマインドをソウルマインドと同等に引き上げる方法を学ぶでしょう。するとあなたの肉体の各細胞はセンスマインドから来る命令に答えるようになります。宇宙人はこれを発達させているために、地球人よりもはるかに長い寿命を保つのです。肉体の心が魂の心に同調して、もはや感覚器官に命令させないために、右のことが達成できるのです。

このことが起こるならば、肉体は不調和な想念や感情（怒りなど）をともなうことなく、自由に喜ばしく生命に応えます。そして個人の肉体細胞はこのような場合に存在する化学作用によるアンバランスによって破壊されることはありません。そうなるとその細胞は強烈な怒りの感情の緊張下にある細胞よりも長年月のあいだ若さを保ちます。自由な精神の状態が真の発達のために必要です。いかなる種類の心配、怒り、心の緊張といえども肉体を破

壊し、各人が自然にもっている印象感受力を妨げるにすぎません。

心のこのゆったりした状態が日常生活で応用されないかぎり、人間は自身の意識のレヴェルを、宇宙的価値をもつ想念印象を感受しうる高さにも引き上げることはできません。

地球人をかくも長いあいだ後退させていたのは、地球人の誤った概念です。この講座を研究するにつれて、万人が本来テレパシの受信能力をもつことと、人はただ目覚めてその応用法を教えられさえすればよいということが、あなたはまもなくわかるでしょう。少数の幸運な人だけがテレパシの感受力をもって生まれて、その他の人はそれをもっていないというのは、特殊な才能によるものではありません。人々のなかにはたしかに一般人よりもテレパシを応用する自然の能力をもって生まれた人もありますが、これはただ本人が他の人よりも宇宙的な線にそって高い発達を上げていることを意味するにすぎません。

### 復 習

さてこの第一課を注意深く復習して、最初に述べたようにノートをとり続けて下さい。再度申しますが、充分な時間をとって、先を急がずに各課を徹底的にマスターして下さい。





第一課の試験

次の各項目のなかで正しいと思われるものの符号（A、B、C、D）を○でかこんで下さい。計十問の各群のなかに正しい解答が一つだけ含まれています。それ以外は誤った答えですが、これは今日世界でひろがっている誤った考え方をあらわしています。これはあなたの思考力を促進するためにわざとつけ加えられたもので、それによってあなたは正しい解答を選ぶのに推論する必要がありません。宇宙人の見地から与えられた正しい解答だけがこの講座で正しいものとなります。

1 テレパシーとは

- A ある幸運な人々をもって生まれた特殊な才能である。
- B 他人の心を読みとる術にすぎない。
- C 感覚を伝達するためにあらゆる生命形態にそなわっている自然の能力である。
- D それを応用してなまけ暮らしてはならない。

2 現代社会の混乱は次のものによってひき起こされた。

- A エデンの園でリンゴを食った人間。
- B 人間のせまい理解力によって人間が自然の法則をゆがめた。
- C 現代人のように知性的でなかったわれわれの祖先。
- D 全人類をだまそうとしている悪魔。

キリトリ線

3 自然のもつ宇宙の諸法則の一つは

- A テレパシーである。しかし今日その必要はない。
- B テレパシーである。それは読心術にすぎない。
- C テレパシーである。それは人間の普通の感覚器官の範囲外にある力によって達成される。
- D テレパシーである。それはあらゆる人間の正常な働きの一つである。

4 新しい知識は多数の人によって拒絶される。その理由は

- A この世界のいわゆる偉人による先入見に逆行するから。
- B 一般人は新しい物事を学ぼうとしないから。
- C 新しい知識は一般人の日常生活に変化を起こさないから。
- D 新しい知識が一般人向きにできているかどうかはわからないから。

5 新しい人間は次のものなかに存在する

- A 広大な想念波動の海。本人はそれを常に気にとめている。
- B 広大な想念波動の海。そして本人は善なるもののみを通して、悪い影響を与えるものを投げ捨てる。
- C 広大な想念波動の海。自分の先入観を確証するもののみを通過させる。
- D 自然の諸法則のよき理解。

6 次の各項目のなかでどれが正しいか

- A テレパシーは新しい、すぐれた宗教信仰である。

- B 宇宙人は地球人よりも健康で生きて、長い寿命を保つが、これは彼らが肉食主義者で、肉類を食べないからである。
- C テレパシーは宗教信仰とは関係がない。
- D 宇宙は広大な、沈黙した、すべてを包括する静寂として存在し、完全な不活動のなかにある。

7 次の各項のどれが真実か

- A 個人の肉細胞は、緊張または怒りなどの激しい感情下に存在する化学作用のアンバランスによって破壊されない。
- B 心のゆったりした状態は印象を受感するのに必要である。
- C 激的な精神集中はテレパシーによる想念の送・受信に必要である。
- D 人間は自分を生み出した「至高なる英知」と調和して働いている。

8 次の各項のなかで誤っているのはどれか

- A 地球の誤った概念は長いあいだ人間を後退させてきた。
- B 自分の考え方が正しければ、講座を読むたびごとに同じ印象を得るはずである。
- C この講座を終了したとき、自分は多くの宇宙の法則を理解して、それを日常生活に応用することができるようになるだろう。
- D 人間と他の高等動物のあいだには大きな相違が存在している。その相違は万物にたいして推論する能力である。

- 9 人間は次のような場合に偉大な物事を達成できる
- A 人間が、眠っている第六感を十分に発達させるとき。
- B 宇宙人がやってきて地球人に方法を示すとき。
- C 人間が宇宙の「因」との一体性を認めるとき。
- D 人間が精神集中の技術を習得するとき。

10 この講座から最大量を得るためには次のようにしなければならぬ

- A 研究用として図書館でテレパシーの本を見つける。
- B この講座を習得し終わるまでは、テレパシーに関する他の書物を見ない。
- C 急速に知識を得るために、毎日数時間研究する。
- D 一週間に少なくとも一レッスンを完了するようにする。

右について受験を希望される方は、解答及び左の欄にご記入の上、このページを切り取って三〇〇円を添付して編者宛にお送り下さい。ハニー氏が用意した「カギ」にもとづいて当方で採点した上で返送いたします。受験料は本会の経費に充当します。

住所  
氏名  
氏名  
氏名

年令  
職業

## 編集後記

◎ 本号には主としてキャロル・A・ハニー氏の記事を掲載しました。ハニーはアダムスキーの後継者として活動している人で、コンタクトティーであるといわれており、円盤問題に関する重大なカギをもっている人のようで、まれに見る英才と称されています。その「テレパシー講座」はアダムスキーの著書「テレパシー」を布延拡大したもので、現在この類書は世界のどこにも見当りません。われわれに益するところ大なるものと信じます。なおテレパシーの研究には電磁気に関する基礎知識を必要とするとして述べてありますので、講座中の解説以外に詳細な知識を望まれる方のために、この方面の専門家である誌友T・W氏のご好意によって、国内で出ている電磁気関係の良書を次号で紹介いたします。

◎ 本誌の発行が遅れて申し訳ありません。ご承知と思えますが、このGAPの仕事は翻訳・編集・タイプ打ち・発送・通信連絡・その他すべてがワンマン・オペレイション（一人でやること）によって行なわれていますが、それにはまた編者の日中の勤務を除いた夜間が主として利用されていますので十分な時間が得られず、どうしても遅れがちになるわけです。しかし多勢で運営する同人雑誌類が数号でつぶれる例もかなりあるのですから、それからみれば本誌はここまでよく続いたものだと思います。これは全く誌友諸賢のご援助の賜物であると心から感謝している次第です。

◎ 手紙類もなるべく長文のものを差し上げたいのですが、右の都合で思うようにゆかない場合があります。そっけない返事に終わったりします。そこで考えますのはテープレコーダーの利用です。こんなすばらしい文明の利器を用いないということはありません。テープレコーダーをお持ちの方で、編者と意見の交換を望まれる方は、3インチかまたは5インチのテープに質問なり意見なりを

録音し、空白の部分を残してお送り下さい。当方の声をそれに録音した上で返送いたします。この郵送の仕方は次のとおりです。市販のテープは必ず厚い紙箱に入っていますので、これをそのまま包装とし、表面に宛先を記した紙片をはりつけてヒモを十文字にかけ、中のテープが見えるように箱の一部へ小さな穴をあけて、五種便と表記します。そうすれば郵送料はるインチテープで二〇円、5インチならば四〇円ですみます。ただし返送用の切手を同封しておいて下さい。当方のテープレコーダーのスピードは十九、九・五、四・七五の三種類ありますが、なるべくならばるインチテープでスピードは四・七五を用いるのが好都合です。5インチならば当方のスピードは十九か九・五しか利用できません。現在はテープレコーダーも一万円以下で小型ながら優秀なものが出まわっています。これを大いに活用して「声」の交換を行なおうではありませんか。

◎ 去る十月中旬に「あひむ連合」主宰者十菱りん氏が鶴子夫人と二才になるマリアちゃんとともに編者宅へお見えになり、きわめて楽しい二日間をすごすことができました。氏のご厚意に深謝しています。

◎ よき年をお迎えになりますようお祈りいたします。（久）

日本GAPニューズレター	一九六三	11月・12月
編集発行人	久保田八郎	
発行所	日本GAP	
昭和三十八年	十二月十日	発行
鳥根県益田市益田古川	振替 松江二六三〇	
	(久保田八郎個人名義)	
通巻第19号	頒価一〇〇円・送料二〇円	